

遷移先画面を検知して例外処理を実行するサンプルシナリオ

監視ルール(例外処理)を使用して遷移先画面を検知するサンプルシナリオとなります。

監視ルールの利用方法学習に利用することができます。
本サンプルシナリオを変更することで、Webページにて検索した結果が0件の場合は、ダイアログを表示する処理へ分岐させるシナリオなどの作成ができます。

サンプルシナリオ概要

目次
はじめに
本サンプルシナリオの概要 <ul style="list-style-type: none">使用するWinActorモジュール動作確認環境制約事項
本サンプルシナリオの使い方 <ul style="list-style-type: none">Step 1. サンプルシナリオの読み込みStep 2. 動作に必要な変数の設定・確認Step 3. サンプルシナリオの実行Step 4. サンプルシナリオの終了後の確認
トラブルシューティング
サンプルシナリオ解説 <ul style="list-style-type: none">1. クリックの設定2. 監視ルールの作成(例外処理)3. 監視ルールの設定(例外処理)4. XPathの取得5. 施設選択画面から遷移する画面
変更履歴

はじめに

監視ルール(例外処理)を使用して遷移先画面を検知するサンプルシナリオ(以降、本サンプルシナリオ)について説明します。

本サンプルシナリオの概要

本サンプルシナリオは、以下の処理を行います。

インプットボックスで施設ボタンを選択します。(1:「植物園」/2:「動物園」/それ以外:「水族館」)

URLを指定してブラウザ(Chrome)を新規に起動します。

起動した施設選択画面のサイズを変更し、前面に表示します。

インプットボックスで選択した施設の詳細入力画面に遷移します。

インプットボックスで1を選択した場合、「サンプルシナリオによる疑似エラー」のページへ遷移します。

□ 監視ルールが「サンプルシナリオによる疑似エラーページ」を捕捉し、例外処理グループの「エラー画面の検知」に処理が移ります。

□ 監視ルールでエラー画面を検知した旨のエラーメッセージが表示されます。

インプットボックスで1以外を選択した場合、それぞれの詳細入力ページへ遷移します。

使用するWinActorモジュール

本サンプルシナリオでは、以下のWinActorモジュールを使用します。

ノード/ユーザ/待機ボックス

ノード/ユーザ/インプットボックス

ノード/変数/変数設定

01_WinActor制御/02_シナリオ制御/シナリオ停止.ums6

01_WinActor制御/08_実行ログ/ログメッセージ出力.ums6

07_文字列操作/03_連結/文字列の連結(3つ).ums6

11_ウィンドウ関連/ウィンドウ前面化.ums6

11_ウィンドウ関連/ウィンドウ識別クリア.ums6

11_ウィンドウ関連/画面サイズ、位置設定.ums6

23_ブラウザ関連/クリック.ums6

23_ブラウザ関連/ブラウザ起動.ums6

23_ブラウザ関連/ページ表示.ums6

動作確認環境

本サンプルシナリオは以下の環境で動作確認しています。

Windows 10

WinActor 6.3.0、7.1.0

Chrome 86.0

制約事項

本サンプルシナリオは、JavaScriptの設定が無効の場合には対応しておりません。

本サンプルシナリオの使い方

本サンプルシナリオの実施方法は以下の通りです。

Step 1. サンプルシナリオの読み込み

ダウンロードしたサンプルシナリオのZIPファイルを展開し、展開したフォルダに含まれている本サンプルシナリオをWinActorで読み込みます。

Step 2. 動作に必要な変数の設定・確認

本サンプルシナリオを実行するために必要な値を、変数一覧で設定します。

事前に設定が必要な変数は下記に記載されています。

URL

任意のURLを初期値に設定してください。

添付のサンプル(facilitySelecttop.html)など、入力ファイルをウェブページとして使用する場合、絶対パスで指定してください。

例) https://xxx/xxx

XPath1

指定したブラウザで使用する施設ボタン[植物園]のXPathを指定してください。

例) /html/body/form/p[1]/input[1]

XPath2

指定したブラウザで使用する施設ボタン[動物園]のXPathを指定してください。

例) /html/body/form/p[1]/input[2]

XPath3

指定したブラウザで使用する施設ボタン[水族館]のXPathを指定してください。

例) /html/body/form/p[1]/input[3]

XPath4

指定したブラウザで使用する詳細入力ボタンのXPathを指定してください。

例) /html/body/form/p[2]/input

XPathの取得方法は[サンプルシナリオ解説の「4. XPathの取得」](#)を参照してください。

変数一覧						
グループ名	変数名	現在値	初期化し...	初期値	コメント	
変更可能変数	URL		<input type="checkbox"/>	C:\施設選択画面サンプル\facilitySelecttop.html	【必須】任意のURLを初期値に設定してください。	
	XPath1		<input type="checkbox"/>	/html/body/form/p[1]/input[1]	【必須】指定したブラウザで使用する施設ボタン[植物園]のXPathを指定してください。	
	XPath2		<input type="checkbox"/>	/html/body/form/p[1]/input[2]	【必須】指定したブラウザで使用する施設ボタン[動物園]のXPathを指定してください。	
	XPath3		<input type="checkbox"/>	/html/body/form/p[1]/input[3]	【必須】指定したブラウザで使用する施設ボタン[水族館]のXPathを指定してください。	
	XPath4		<input type="checkbox"/>	/html/body/form/p[2]/input	【必須】指定したブラウザで使用する詳細入力ボタンのXPathを指定してください。	
変更不要変数	ブラウザ名		<input type="checkbox"/>			
	施設		<input type="checkbox"/>			
	エラーメッセージ		<input type="checkbox"/>		エラーが出力された際に表示されます。	

変数一覧画面

Step 3. サンプルシナリオの実行

WinActorで本サンプルシナリオを実行します。

Step 4. サンプルシナリオの終了後の確認

インプットボックスで選択した項目に対応する画面が表示され、1:「植物園」を選択した場合はエラー画面検知のダイアログが表示されていることを確認してください。

遷移先についてはサンプルシナリオ解説の「5. 施設選択画面から遷移する画面」にて説明しています。

トラブルシューティング

本サンプルシナリオでは、変数指定が不十分であった場合、エラーメッセージが出力されます。

詳細については、エラーメッセージ一覧 (https://winactor.biz/samplescenario/errmsg_10932.html)を参照してください。

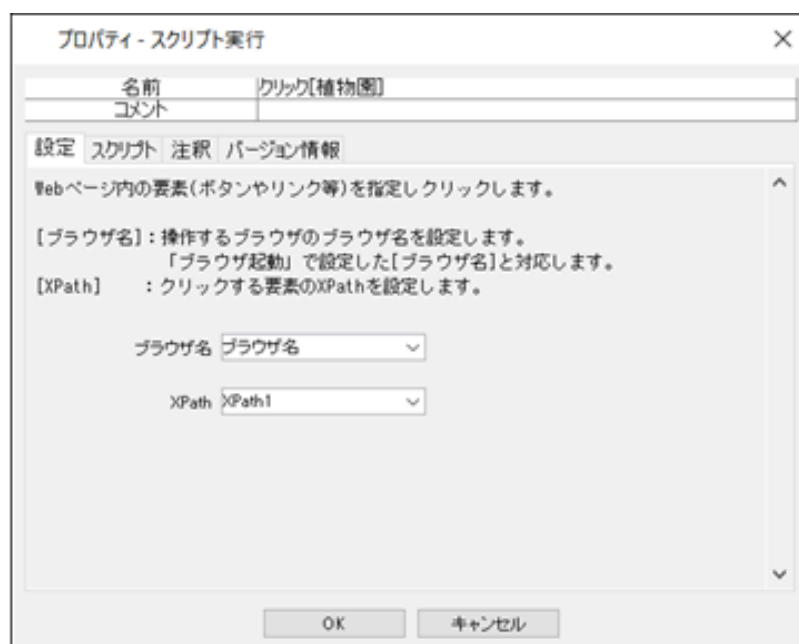
サンプルシナリオ解説

本サンプルシナリオで使用している実装テクニックについて説明します。

1. クリックの設定

シナリオ上、以下のライブラリにてブラウザ内のクリックの設定を行っています。

「クリック」ライブラリでブラウザ内のクリックの設定



クリックの設定

2. 監視ルールの作成(例外処理)

監視ルール(例外処理)の作成手順を説明します。

①新規作成する例外発生を監視ルーラー一覧から追加します。

例外名と例外発生時に捕捉するウィンドウを登録します。

No.	対処種別	例外名/サブルーチン名
-----	------	-------------

ウィンドウ識別名: サンプルシナリオによる疑似...

対処種別:

- ☐ シナリオを停止する
- ☒ 例外を発生させる
- ☐ サブルーチンを実行する

例外名: エラー画面の検知

サブルーチン名:

OK キャンセル

監視ルールの追加

②例外処理グループのプロパティで追加ボタンを押下します。

追加された例外処理欄に①で登録した例外名を選択します。

名前: 例外処理グループ

コメント:

追加 削除

No.	例外名
1	アクション例外
2	

OK キャンセル



名前: 例外処理グループ

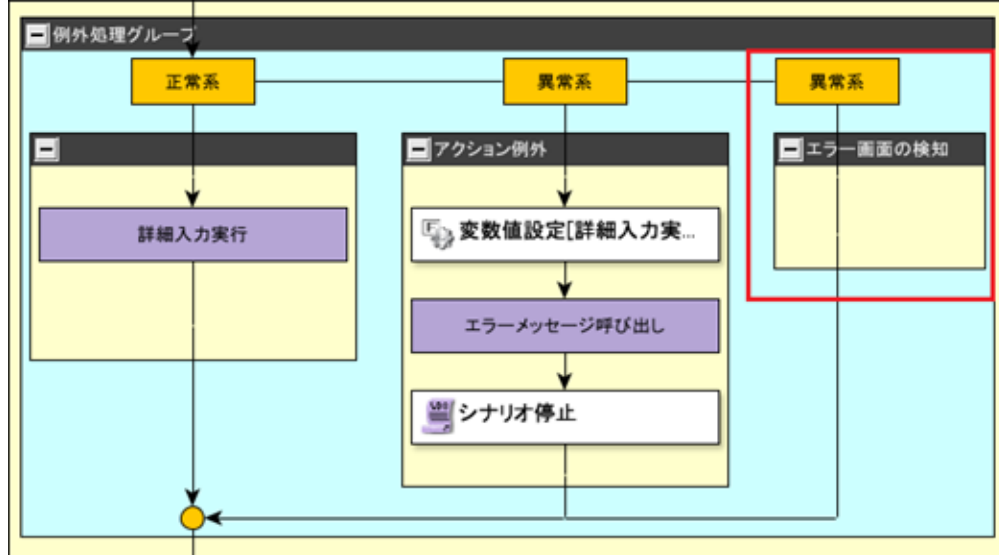
コメント:

追加 削除

No.	例外名
1	アクション例外
2	エラー画面の検知

OK キャンセル

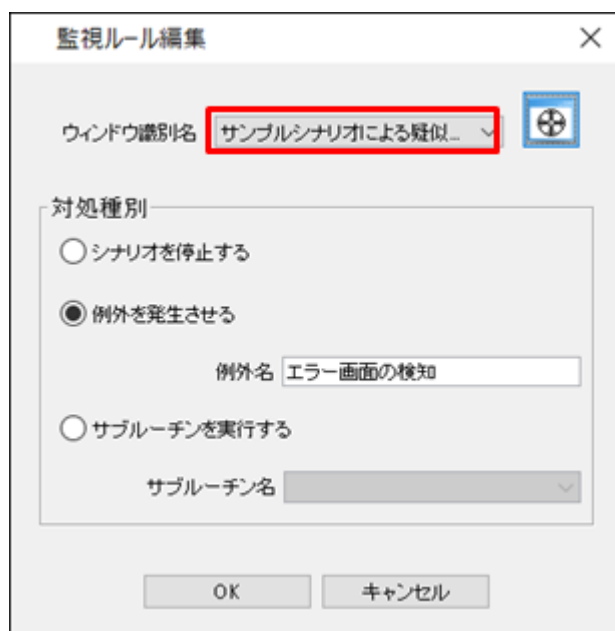
エラー画面検知登録前後のプロパティ



エラー画面の検知登録後

3. 監視ルールの設定(例外処理)

インプットボックスで「1」を入力した際に遷移する「サンプルシナリオによる疑似エラー」をウィンドウ識別名で指定しています。



ウィンドウ識別名に疑似エラー判定するウィンドウを設定

4. XPathの取得

クリックライブラリで指定する、Webページ内のボタンやリンク等を設定する要素のXPathを取得します。
詳細については、WinActor ブラウザ操作シナリオ作成マニュアルのXPathの取得手順を参照してください。

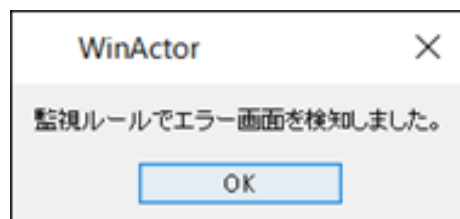
5. 施設選択画面から遷移する画面

施設選択画面で「植物園」を選択した場合、以下の「サンプルシナリオによる疑似エラー」に遷移します。



サンプルシナリオによる疑似エラー

設定されている監視ルールにて「サンプルシナリオによる疑似エラー」を捕捉後、[エラー画面の検知]メッセージを出力します。



エラー画面の検知メッセージ

施設選択画面で「動物園」を選択した場合、以下の「詳細入力画面2」に遷移します。

A screenshot of a web form titled "詳細入力画面2" (Detailed Input Screen 2). The form has a dark blue header bar with the title in white. Below the header, the text "好きな動物の種類" (Type of favorite animal) is displayed. Underneath, there are three radio button options: "肉食動物" (Carnivorous animal), "草食動物" (Herbivorous animal), and "雑食動物" (Omnivorous animal). The "肉食動物" option is selected, indicated by a blue dot. At the bottom left of the form, there is a button labeled "送信" (Send).

詳細入力画面2

施設選択画面で「水族館」を選択した場合、以下の「詳細入力画面3」に遷移します。

詳細入力画面3

好きな動物の種類

選択する

▼

送信

詳細入力画面3

変更履歴

版数
1.0版
日付
2020/11/16
修正内容
初版

版数
1.1版
日付
2024/1/16
修正内容
・注意事項を削除 ・ファイル名を「SS2011_10932_HandleException_DetectScreen_1.0.1.zip」に変更

